

细腻なんて言わせない!!

245



「震災後は、とにかくお話を聞いてやり、心の負担を少しでも軽くして…。明るくなっていただければ私たちもうれしいんです」と語る安島さん

心の負担軽くしてあげたい

「自分も成長するんです」と語る

安島 爵子さん

■いわき傾聴ボランティア「みみ」代表
■いわき市勿来町関田南町七五

電話／〇八〇一―六六二―一七六二

社会は、さまざまな人で成り立っている。自分以外の人と交流する中で大事なものは、コミュニケーションの手段の一つ会話。つまり、「聞く・話す」。

「私たちの団体は当初、お話しする機会が少ない認知症の高齢者を対象に、ありのままのお話を聞いてやりたい、として生まれました。少しでも聞いてあげられれば、相手の方も喜び、心の負担も軽くなるでしょうから。皆さん、とても明るくなるんですよ」

市内一円でこうした「聞く活動」をして、お年寄りたちの「心の解放」に努めている安島爵子さん（五六）は、仲間たちとともに励んできた経過などを笑顔で続ける。

同団体が産声を上げたのは、平成二十年四月。地区の福祉団体との会合の折、傾聴ボランティアのを知り、「勢いで団体を作っちゃったんですよ」（安島さん）。同ボランティアは、アメリカが起源。その後、東京に本部を持つ特定非営利活動法人のホールファミリア教会が、普及を始めていた。



避難所、仮設を回り「聞く」奉仕続ける

当初のメンバーは、六十代の主婦を中心に、介護関係者らを含め、ざっと三十人。市勿来支所に事務局を置き、施設には二人一組で、また、個人宅には一人で訪問し、月に一、二回、一時間の割合で活動を行っていた。

「地震、大キライ！」

「対象になる方たちはお年寄りが多いものですから、私たちのメンバーも五十代以上のの方がいいんです。戦前のこととか、昔の歌などもお話の中に入りますので、ある程度は理解できるといって共通点が多いんです」

こうして地道な活動を行っていたところ、三年前の大震災。

「あの震災以来、鯉川の橋を渡るのが怖いし、今でも地元の岩間や小浜の被災

地を見るのはとてもつらいんです。地震、大キライ！」と、強調する安島さんだが、震災をきっかけに、メンバーとともに、フルの奉仕に汗を流す。

会の発足後は会員の輪も広がり、手分けしながら避難所、仮設住宅を訪れ、お年寄りたちを中心に交流。直後は行政機関からの連絡待ちの姿勢だったが、混沌（こんとん）が、日常でもあったため、「私たち、勝手に動き回って奉仕を続けました」と、笑う。

だが、対象者の口から出る生死に関する話になると、「想像を絶するようなことばかりでした」と続け、つらい話が少



なくなかったことで、「活動に行き場を見失い、退会した人もいました」と振り返る。

とはいえ、対象者の多くは当初こそぎこちなかったものの、再三にもなると、打ち解け、彼女たちの訪問を

大歓迎。「家族に対して優しくなった」「明るくなった」「夜もぐっすり寝られるようになった」との声も多く届き、安島さんたちを喜ばせた。

「震災後は、つらい目に遭った人ばかり。私たちは一生懸命、耳を傾けました」と語る安島さんは、「私たちの仕事は耳を傾けて寄り添うこと。相手の苦勞、気持ちを理解できないと…。そうすれば、自分も成長できません。でも、いろいろな問題が生じ、あつれきが出て、ギクシャクするのは残念ですね」と言いつつ、表情を曇らせた。

プロフィール

あじま・たかこ

1957年10月11日生まれ。金山町出身。「震災の時は義母を連れ、勿来の関へ一目散」。現在のメンバーは、48人。すべてが奉仕で、「義援金をいただいた場合は、年間、一人千円の交通費ぐらいですわね。」「これから多くの人々の心のかえを取ってあげたい」。会社員の夫との間に1男1女。得意な料理は、「季節野菜の、具だくさんの…」。O型

■お知らせ=このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

近代・現代陶芸秀作展 -人間国宝の作品を中心に-

会期/平成26年3月20日(木)~4月1日(火)
午前10時~午後6時(最終日は午後5時閉場)

本展では、備前焼の大家・金重陶陽、十三代今泉今右衛門、中島宏など、重要無形文化財保持者(人間国宝)や巨匠を中心に、近代から現代までの陶芸史に名を連ねる作家の秀作を一堂にご紹介致します。この機会にぜひ、ご高覧ください。

そのほかのご案内

アンティークジュエリー展
2/27(木)~3/4(火)
游工房 漆の作品展
3/6(木)~3/16(日)



有限会社 小野美術

いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F

☎0246-35-0383

HP: <http://onobijutsu.jp> e-mail: onobijutsu@sirius.ocn.ne.jp



十三代今泉今右衛門 色鍋島更紗文鉢



中島宏 青磁壺



金重陶陽 備前花入